

## 8章 社会連携・社会貢献

### 1. 現状の説明

#### (1) 社会との連携・協力に関する方針を明確に定めているか。

本学は学園全体のビジョンとして「地域と共に生きる」ことを標榜し、社会との連携を重視している。本章の生涯学習講座、総合地域研究所、国際交流委員会、ボランティアなどの活動は、この学園の方針を具現化するものとなっている。

生涯学習講座は平成3年に地域社会に対して日本社会や国際社会の問題などについての最新の知見を提供することを目的とし、また、市民に対して語学や情報処理などのスキル教育の場を提供する役割を担い発足した。同講座の活動は、「敬愛大学生涯学習委員会規程」の第2条第2項で定められているように、「地域連携、地域貢献に関すること」を基本方針として運営されている。(資料8-1)。

総合地域研究所は、2009年に経済文化研究所と環境情報研究所とが統合して発足した。設立の目的は、「敬愛大学総合地域研究所規程」の第2条第1項にあるように、各分野の「学術研究、調査を通して、世界の諸地域、また本学の存立する地域の平和と豊かなる社会の形成に寄与する」ことにある。研究所には学内の正規研究員以外に「客員研究員」・「特別研究員」および「地域研究員(主として近隣地域在住の一般人)(研究所規程第4条第3項)」が置かれている(資料8-2)。現在2名の方が地域研究員として共同研究に参加している。

国際交流委員会は、「敬愛大学国際交流委員会規程」により国際交流に関する事項、学生および教員の国際交流に関する事項を運営すると定められている(資料8-3)。

ボランティア活動は、第4章で述べているように、両学部で授業として単位化し、地域協力を中心とした活動を行っている(資料8-4)。また、学生組織である学友会が組織する「ボランティアセンター」はボランティアの地域広報活動をおこなっている。

#### (2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。

生涯学習講座は、千葉県教育委員会と千葉市教育委員会の後援により、前期・後期に分けて開講している(資料8-11)。開講内容は①大学正規授業科目を公開する「大学公開講座」、②語学講座、③メディアセンター講座、④趣味と教養講座等がある。2010年度から2012年度の3年間の平均は、年間開設講座数106、参加者数(延べ人数)は1252.3人、1講座当たりの受講者数は11.9人であった(資料8-12 表12)。受講者の多くは周辺の住民である。

総合地域研究所では①シンポジウムの企画・主催、②講演会主催、③共同研究の支援、④紀要『敬愛大学総合地域研究』の発行、⑤高校生論文コンテスト等の事業を行ってきた。

2010年度から毎年「千葉学への道」と題したシンポジウムを開催し(資料8-5)、歴史、経済、教育、地域活性化、ICTなど様々な分野からのアクセスを図っている。シンポジウムは一般公開されており、2013年度は外部から多数の出席があった。

## 8. 社会連携・社会貢献

また、2012年7月5日は独立法人放射線医学研究所から講師（原田良信氏）を招き、「生活と放射線」についての講演会を主催した（資料8-6）。

本研究所では助成する共同研究の数も年々増加しており、例えば「近代日本におけるアジア人留学生の『日本体験』の再検証」（2011-12年度）は、他大学の先生方を研究協力者として、20世紀前半の千葉で学んだ留学生の活動を跡づけ、2012年1月21日国立歴史民俗博物館（佐倉市）でシンポジウムを開催した（資料8-7）。また、『『フード&アグリ』をめぐる新たな教育カリキュラム構築に向けての実践的活動（2012-13年度）『食と職をつなぐ』』（2014-5年度）では「食と農」に関する実習に力を入れている。この件は『千葉日報』で「国際的視点で農業を考える 高大連携し『食』の人材育成」として取り上げられた（資料8-8）。

研究所の活動記録として毎年紀要『敬愛大学総合地域研究』を発行している（資料8-9）。

最後に、高校生論文コンテストは2011年に第9回をもって終了したが、9年間にわたり全国の高校から参加をみた本活動は、高校生に社会問題に関心を向けさせ、社会参加と社会協力の精神を培うことに一定の貢献をしたものと思われる（資料8-10）。

国際交流委員会は、国際交流推進を目的として、2008年度に千葉商工会議所との共催で講演会「インドと日本を考える」を開催した。また同年秋には外務省および千葉商工会議所との共催で「世界金融危機と国際社会の行方」をテーマに講演会を開催した。いずれも一般市民を中心に多くの参加があった。

同委員会は、学生の海外留学を活発化させるため、2009年度から『留学のすすめ』を編集・発行し、学生に海外留学をうながし、留学を支援する活動をおこなっている（資料8-13）。現在、長期・短期留学が可能となる海外提携校は、「ウルバーハンプトン大学」「シェフィールド大学」「ハル大学」（いずれもイギリス）、「ジェームズ・クック大学」「ウーロンゴン大学」（いずれもオーストラリア）、「ポートランド州立大学」（アメリカ）、「北京第二外国語学院」（中国）、「中国文化大学」（台湾）、「モスクワ人文大学」「リャザン大学」（いずれもロシア）、キエフ国立言語大学（ウクライナ）である。この中で、台湾の中国文化大学とはダブルディグリー制度の提携を結んでいる。現在1ヵ月の語学研修を実施しているのは、ポートランド州立大学とジェームズ・クック大学であるが、2013年度からはフィリピン大学の夏期短期留学にも参加している（資料8-14、資料8-15）。

また、教員の海外留学に関しては、2010年9月から2012年8月の2年間経済学部の教員が1名イギリスに、2010年9月から1年間と2011年9月から1年間国際学部の教員がそれぞれ1名ずつアメリカに留学した。また、2011年9月からは半年間経済学部の教員がオーストラリアの大学に留学した（資料8-12 表14）。2014年度には9月から経済学部の教員がルクセンブルク大学に1年間留学することが決まっている。また、留学から帰ってきた教員と留学経験のある卒業生を講師として2010年秋から毎年「国際交流講演会」を一般公開して開催している（資料8-16）。

## 8. 社会連携・社会貢献

ボランティア活動に関して、2007年5月12日に起きた中国四川省の大地震の際、学生たちが自主的に街頭募金、フリーマーケット、また地域の中学校、住民から募金、文房具などの支援物資を集める活動を行った。学生たちはこれらの支援金と援助物資、7千羽の千羽鶴などを四川省茂県の小学校を訪問し、直接子どもたちに手渡した。この活動は学生たちが自主的に地域と連携して行ったものであり、中国の地元の新聞でも報道され、高く評価された（資料8-17）。

2011年3月11日の東日本大震災に際しては、本学は全学単位でボランティア活動を実施した（資料8-18）。活動内容は、宮城県名取市の尚絅学院大学の協力を得ての愛島（めしま）仮設住宅における被災者支援である。現地に教職員と学生を派遣するとともに、千葉県内の全高校に「励ましビデオの提供」の支援協力を呼びかけた結果、幕張総合高校、津田沼高校、千葉敬愛高校よりマーチングバンド演奏などのビデオの提供があった。さらに千葉工業高校、一般市民より図書、京葉高校手芸部からは生徒による作品、千葉の菓子製造企業3社より製品の提供があった。

2012年2月にはシンポジウム「東日本大震災1年を前にして一震災と教育」を尚絅学院大学より講師派遣の協力（2名）を得て開催した。本シンポジウムは同年2月24日付「千葉日報」および同紙のウェブサイトでも紹介された（資料8-19）。2012年度、2013年度も引き続き宮城県名取市でのボランティア活動を実施した（資料8-20、8-21）。これを機に本学ではボランティア活動実施のための「ボランティア基金」の口座を開設した。

その他の活動としては以下のとおり、学生を地域の要請に応じて派遣する活動や本学の行事に地域住民を招待する活動等をおこなっている（資料8-22）。

- ①2009年度に千葉市立宮野木小学校からの要請により留学生5ヵ国8名を派遣した。
- ②2011年度から千葉市道路局が主催する市道緑地化などの連絡会議へ学生が参加している。
- ③2011年度から千葉県国際課の主催する「チーバくんと共に千葉県の魅力を海外に向けて発信する大使（チーバ君大使）」に毎年本学の留学生が任命されている。また、「千葉市外国人留学生交流員」制度に2009年度から参加し、市民の国際理解を深める活動にこれまで5名の留学生が任命されている。
- ④2012年度に、稲毛区役所主催の「区民対話会」に学生の派遣が要請され、「まちづくり」をテーマとする対話会に学生の意見が反映された。また、地域商店街のイベントにも参加を要請され、商店街の活性化に貢献している。地域町内自治会との連携も活発化しつつある。

また、上記のほか、2011年度より千葉県教育庁と敬愛大学の提携により、県内中学生・高校生対象のキャリア教育「しごと体験キャンプ」夢プロジェクトをサポートしている（資料8-23）。事前授業、インターンシップ、事後指導含め5日間に渡り敬愛大学キャリアセンターが指導し選抜した学生がチューター役をしている。3年間の評価は高く、今後も継続するものと思われる。

## 8. 社会連携・社会貢献

### 2. 点検・評価

#### ●基準の充足状況

「社会貢献」「社会連携」に関しては、総合地域研究所、生涯学習講座、国際交流委員会、ボランティア活動などを中心に年々活発化しており、基準を概ね充足しているといえる。

#### ①効果が上がっている事項

- ・生涯学習講座は発足から10年が経っているが、地域住民に対して生涯教育の機会を提供し、一定の貢献を果たしているといえる。
- ・総合地域研究所に関しては、2013年6月で第4回目となるシンポジウム「ITC社会の未来と千葉」を主催した。柏市役所職員にパネラーの1人として参加いただき、柏市、千葉市教育委員会、千葉県教育委員会の支援を得るなど、次第に地域との連携による開催のスタイルができつつある。また、「フード&アグリ」に関しては、前述したように千葉黎明高校と国際学部の教育連携協定が結ばれた。
- ・国際交流委員会は、『留学のすすめ』を発行し、また海外提携校を増やし、留学奨学金を設けるなど学生の留学を活発化する環境を整えることができた。2013度から、短期語学研修参加者に奨学金を出し、学生支援を実行している。また、毎年実行している国際交流講演会には年々一般市民からの参加が増えている。
- ・東日本大震災被災地へのボランティア活動が継続的に地方自治体や地域企業との連携により実施できている。
- ・地元自治体との連携により、学生が自治体の活動に積極的に見学に行くなど学生の教育に還元されている。また地域住民との交流は、地域住民から大学が評価される機会となっている。

#### ②改善すべき事項

- ・生涯学習講座は、1講座あたりの平均受講者数が少ないことが課題である。また、正規授業科目の公開数をさらに増やして充実していくことも課題である。
- ・「留学のすすめ」の活動にも関わらず、学生の海外留学はまだ活発とはいえない。今後は、語学力の向上、奨学金のさらなる充実につとめ、学生の留学を一層活性化していく必要がある。また、国際交流委員会の業務を担当する職員の不足、および専門部署がないことにより、学生が留学についての資料や相談を行うスペース・部屋が設置されていないため、不便を生じている。
- ・東日本大震災被災地でのボランティア活動の内容の企画について、学生の主体性がやや欠如していたことが課題であったが、参加者と意識を年々高めていく必要がある。

### 3. 将来に向けた発展方策

#### ①効果が上がっている事項

## 8. 社会連携・社会貢献

・生涯学習講座は、認知度が高まっているので、地域住民のニーズ（語学、趣味、教養など）に合わせた講座の提供を行う。2014年4月からは稲毛駅前のビルに敬愛大学生涯学習センターを開設する。これまでは主に土曜日に開講してきたが、平日の開講を増やすことで、多くの受講者の参加が期待できる。

・総合地域研究所のシンポジウムは、学外の出席者も増えてきていることから、今後も地域との連携による共同研究を増やし、その成果を一般公開して還元していくこととする。

・「フード&アグリ」は、千葉県教育庁の協力も得られることとなり、茂原樟陽高校を中心とする農業コースを持つ県立高校のコンソーシアムに関わることになる。また、関係する高校や一般農家、農業関係団体と良好な関係を構築し、発展させていく。

・交換留学、長期留学ができる海外の提携校づくりについては、現在アメリカの東海岸の私立大学（コンコーディア大学）との提携、ダブルディグリー制度の確立の交渉も進んでおり、さらなる充実に取り組んでいく。

・東日本大震災被災地でのボランティア活動を毎年継続することで、訪問地との人的つながりが強化され、支援を続けることの意義を学生たちが自覚することができている。

・地域住民との交流において、地域の行事への参加意識が学生の中に芽生え、地域の幼稚園、小学校への広報など、地域と連携していこうとする姿勢が確立されてきた。

### ②改善すべき事項

・生涯学習講座は、高齢化社会への貢献の観点から、幅広い趣味・教養やウェルネス教育の分野の充実も検討し、受講者を増やす必要がある。

・総合地域研究所は、地域に関連し、地域を啓発、発展させるさまざまな分野におよぶ研究の拠点として、社会連携、地域貢献を実現させるため、さらに共同研究の内容を充実させていくべきである。

・学生の海外留学を活発化させるための語学教育と奨学金制度のさらなる充実および国際交流室の開設や職員の増員が必要である。また、学生への新しい知見の提供を可能とする教員の海外・国内留学は継続的に実施していくことが肝要である。

・ボランティア活動は、現在よりも多くの学生の自主性を引き出し、参加を促す必要がある。そのため、地元との連携を強めると同時に、東日本大地震被災地ボランティアを発展的に継続させていくことを、全学をあげて取り組むことが重要である。また、国際教育や環境分野などでの海外ボランティア組織との連携も課題である。

## 4. 根拠資料

8-1 敬愛大学生涯学習委員会規程

8-2 敬愛大学総合地域研究所規程（既出 資料2-3）

8-3 敬愛大学国際交流委員会規程

8-4 授業計画書（全学年用）2013（既出 資料1-5）

## 8. 社会連携・社会貢献

- 8-5 総合地域研究所シンポジウム案内
- 8-6 生活と放射線講演会案内
- 8-7 『近代千葉と東アジア』公開講演会とシンポジウム
- 8-8 『千葉日報』2013年6月2日の記事
- 8-9 敬愛大学総合地域研究 第3号
- 8-10 敬愛大学ホームページ「敬愛大学高校生論文コンテスト」  
[http://www.u-keiai.ac.jp/research/r\\_contest/index.html](http://www.u-keiai.ac.jp/research/r_contest/index.html)  
敬愛大学ホームページ「審査結果（2011年度）」  
[http://www.u-keiai.ac.jp/research/r\\_contest/2011/20111121173250/index.html](http://www.u-keiai.ac.jp/research/r_contest/2011/20111121173250/index.html)
- 8-11 平成25年度後期生涯学習講座案内（既出 資料4(2)-10）
- 8-12 大学データ集（「表18 専任教員の教育・研究業績」除く）（既出 資料3-3）
- 8-13 留学のすすめ
- 8-14 長期留学参加学生
- 8-15 海外語学研修（短期留学）参加学生
- 8-16 国際交流講演会案内
- 8-17 四川省支援プロジェクト2008年度活動報告
- 8-18 2011年度敬愛大学 学外授業活動報告集
- 8-19 シンポジウム『東日本大震災から1年を前にして一震災と教育』関連資料
- 8-20 2012年度敬愛大学 学外授業活動報告集
- 8-21 2013年度敬愛大学 学外授業活動報告集
- 8-22 地域連携の実例
- 8-23 平成23～25年度 千葉県夢チャレンジ体験スクール関連資料